

伝えていきたいものがあります
残していきたいものがあります

まちの
まちの
宝

大地

日本三大鉱物産地として知られる石川町の
足下に広がる大地もまた、
まちの誇り、まちの宝です。

「鉱物のまち・石川」を次の世代にも伝えていくためにー。
石川の大地をテーマにした、
新しいまちづくりにも力を入れています。

阿武隈山地の生き立ちを今に伝える石川の鉱物



【日本三大鉱物の产地】

本町は、東部に御斎所・竹貫変成岩帯が、西部に花崗岩類が分布し、このふたつの異なる岩帯がぶつかりあうことでも大変複雑な地質構造を形成し、まちの至ることから多種多様な岩石や鉱物が産出しています。

中でも、ペグマタイト（巨晶花崗岩）から産出される鉱物は結晶の大きさ、美しさにおいては日本随一と言われ、「石英」「雲母」「長石」、さらには貴重な希元素鉱物である「サマルスキーライト」「ジルコン」など150種類あまりの鉱物が発見され、日本三大鉱物の産地にも数えられています。



安全で堅固な石川の地盤

本町がある阿武隈地域は表層地質の大半が变成岩や花崗岩類の堅固な地盤から成り、また、活断層も少ないとことから地盤に対する安全性は極めて高い地域と判断されたため、首都機能の移転候補地にもなっています。

本町では、こうした地盤の安全性や福島空港への近接性などの特色を活かし、企業誘致や定住・二地域居住を進めています。

【石川の産業として 栄えていた鉱物採掘】

石川地方から産出される鉱物の歴史は古く、和銅6年(713年)にはすでに朝廷への貢物として「水晶」や「雲母」が献上されていたという記録が残されています。江戸時代に入ると須賀川ガラスの原料として「珪石」が、壁材として「雲母」が採掘され、明治時代になると陶磁器の釉薬として「長石」が、ガラスの原料として「珪石」が大量に採掘され、昭和40年代までは石川の産業として栄えていました。

しかし、その後、安価で良質な「長石」や「珪石」が海外から輸入されるようになつたため、約80カ所あつたと言われる採掘場は徐々に閉鎖され、石川の鉱山はその役目を終えています。

【石川町歴史民俗資料館】には、石川地方から産出された岩石や鉱物が

数多く展示され、その貴重さと鉱山の歴史を今に伝える「学びの場」になっています。



【石川の鉱物研究の 先駆者・森嘉種】



石川の鉱物

を語るとき、忘

れではならな

いのが明治時

代の偉人・森嘉

種です。彼は現

在の「学校法人石川高等学校」の初

代校長であると同時に、石川地方か

ら産出される貴重な鉱物の発見者・

研究者として知られています。

彼が希元素鉱物の研究論文を学

会に発表して以来、著名な鉱物学者

や地質学者がこの地方を訪れるよ

うになり、「鉱物のまち・石川」は日

大地 ishikawa town



福島県の地形と主な活断層

日本の地震活動
—地震被害から見た地域別の特徴—



石川町歴史民俗資料館

在の「学校法人石川高等学校」の初代校長であると同時に、石川地方から産出される貴重な鉱物の発見者・研究者として知られています。彼が希元素鉱物の研究論文を学会に発表して以来、著名な鉱物学者や地質学者がこの地方を訪れるようになりました。「鉱物のまち・石川」は日本はもとより、世界の研究者にも知られるようになりました。